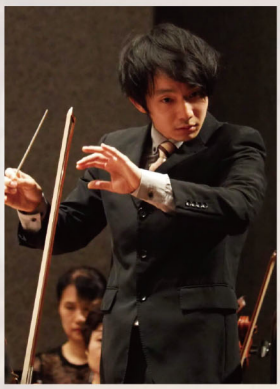
フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋
第24回演奏会

食文化や絵画・映画・音楽などの芸術で日本人を魅了する国「イタリア」。今回の演奏会は、この国にちなんだプログラムをお送りします。「ウィーン」とのつながりは？と思われるかもしれませんが、イタリアは、オーストリア・ウィーン人にとっても、歴史的、地理的にも、文化やアルプスの自然を共有している隣国であり、加えて輝く太陽にも憧れヴァカンスを過ごす等、古くから魅了されている国です。イタリアの作曲家の作品は、ウィーン・フィルでは比較的馴染みが薄いとも思われますが、ウィーン国立歌劇場では数多くイタリア・オペラが上演されています。そのヴェルディの有名な序曲と、こちらはウィーンっ子J.シュトラウス二世の知られざる名曲、イタリアを舞台にした喜歌劇の序曲を集めた前半。後半は永遠の都「ローマ」を舞台にしたレスピーギの２曲。ローマの名所をモティーフに、練達の管弦楽法による華麗な響きが、様々な感情や幻想、歴史の記憶を呼び起こします。指揮は当団初登場の水村氏。ウィーンで研鑽を積んだ若き俊英のタクトが描き出す、色彩豊かな世界をお楽しみください。



指揮　水村 怜央　MIZUMURA Reo

埼玉県立大宮光陵高等学校音楽科（ピアノ）卒業、東京音楽大学作曲指揮専攻（指揮）卒業。
その後渡欧し、ウィーン私立音楽芸術大学修士課程指揮専攻にて研鑽を積む。
これまでにブラチスラヴァ交響楽団、ドホナーニ・オーケストラ、ウエスト・ボヘミアン交響楽団などを指揮。
ウィーン市庁舎にて行われる伝統ある舞踏会にてウィーン・コンス・オーケストラを指揮し、好評を博す。
また、ワーグナー「さまよえるオランダ人」、ペルゴレージ「奥様女中」、ストラヴィンスキー「放浪者の遍歴」、モーツァルト「皇帝ティートの慈悲」などのオペラで副指揮・コレペティートア、チェンバロ奏者を務める。
指揮を広上淳一、Andreas Stoehr、汐澤安彦、田代俊文、時任康文、三河正典の各氏に師事。
また、Jorma Panula、Gábor Hollerung、Charles Olivieri-Munroe、Roberto Benzi、井上道義、下野竜也、高関健、増井信貴の各氏のマスタークラスを受講。
合唱指揮法をGuido Mancusi、コレペティートアをHuw Rhys James、David Aronson、ピアノを三上舞、田尻桂、野田清隆、Natalie Baich、管弦楽法をDirk D'Ase、音楽理論を三上舞、久田典子の各氏に師事。

管弦楽　フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋　Philharmoniker Wien Nagoya

フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋（PWN）は、ウィーン音楽・ウィーン式管楽器をこよなく愛する東海地区のアマチュア奏者を中心に2011年に創設されたオーケストラです。管・打楽器は全員が、世界最高峰ともされるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団（WPh）で使用されている独特のスタイルの楽器～ウィンナ・オーボエ、ウィンナ・ホルン、ウィーン・アカデミー式クラリネット、ウィンナ・ティンパニなど～を使用し、その美しい響きを追求しているという点で他に類を見ない、日本で唯一の楽団と言えるでしょう。また、楽器のみならず、WPhの団員やOBの演奏家を指揮者やソリストとして招聘し、演奏スタイルや精神面まで含め、その薫陶も受けることにより更なる高みを目指しており、10代から80代、関東や関西からも幅広くメンバーが集まっています。古典派から後期ロマン派の大編成の曲まで幅広く取り上げるほか、国立歌劇場管弦楽団を母体とするWPh同様、別名称で歌劇の公演にも取り組むなど、多彩な活動を行っていることも特徴です。

演奏会のお知らせ

第25回演奏会　2026年9月12日（土）　東海市芸術劇場 大ホール

第26回演奏会　2027年2月21日（日）　愛知県芸術劇場 コンサートホール

ベルリオーズ:劇的交響曲「ロメオとジュリエット」ほか　　指揮:武藤 英明　　合唱:名古屋市民コーラス